

JR東日本 上野統括センター・尾久車両センターによる解説イベント

「カシオペアとともに歩んだ軌跡」

～北を目指した名列車～

- 2025年6月30日に惜しまれつつ運行を終了した、寝台特急「カシオペア」の軌跡を振り返るイベントを開催します。
- 26年間にわたり「カシオペア」の運行を支え続けた上野統括センターの乗務員、尾久車両センターの車両メンテナンス社員による貴重な解説をお聞きいただけます。
- 運行に携わった社員ならではのエピソードを通じて、「カシオペア」の軌跡と魅力をお伝えします。

■開催日 2025年

12月6日(土)・7日(日)

■時間 各日とも11:00～、14:00～、
15:30～(50分程度)

■場所 本館2F スペシャルギャラリー2

■定員 20名さま程度

■参加方法 先着順

(開始5分前を目安に会場にお集まりください)

■出演 JR東日本 上野統括センター・
尾久車両センター



写真提供(3枚)
JR東日本
上野統括センター

【参考】寝台特急「カシオペア」について

「カシオペア」は、1999(平成11)年7月16日に上野～札幌間で運行を開始した、寝台特急列車です。専用車両であるE26系は、JRで初めてのオール二階建て寝台客車で、ステンレス製の銀色の車体に5本のストライプを配したスマートな外観が特徴となっており、2000(同12)年にはブルーリボン賞を受賞しています。

「快適空間を実現した寝台列車」をコンセプトに、客室はすべて2人用A寝台個室によって構成され、グレード別に「カシオペアツイン」「カシオペアデラックス」「カシオペアスイート」の3タイプがありました。最上級の「カシオペアスイート」は編成中に2部屋設置されていましたが、このうち上野寄り編成端の1部屋は展望室タイプとして、流れる車窓をゆったりと眺めながら旅を楽しめる人気の一室となっていました。



EF510形電気機関車、DD51形ディーゼル機関車にけん引される「カシオペア」

運行開始以来、長きにわたって東京と北海道を結ぶ人気列車として運行されましたが、北海道新幹線の開業にともない、2016(同28)年3月に定期運行から引退、その後は団体専用の臨時列車「カシオペアクルーズ」「カシオペア紀行」等として、東日本の各地へ向けて不定期で運行されてきました。

しかし、登場から25年以上経過し、車両の老朽化が進んでいたことから、2025(令和7)年6月30日の運行をもって惜しまれつつ引退しました。



定期運行引退後、各地へ向けて運転された「カシオペア」当館脇を走る高崎線を走行することもありました。